



**Buenos Aires | Osaki Nobuyuki Exhibition** 2019.11.22 Fri. 12.8 Sun. 11:00-19:00 / 11:00-22:00 on Fri. / Closed on Mon.  
**Talk Event [ Buenos Aires ]** 12.1 Sun. 16:00-18:00 | Kawamatsu Yasunori, Akiba Fuminori, Osaki Nobuyuki

**Gallery PARC** 2F-4F, 502, Eboshiyacho, Nakagyo-ku, Kyoto-shi, Kyoto, 604-8165 Tel\_075-231-0706 Mail\_info@galleryparc.com HP\_http://www.galleryparc.com

## ブエノスアイレス

大崎のぶゆき

2019年11月22日[金]—12月8日[日] 11:00～19:00 / 金曜日22:00まで開廊 / 月曜日休廊

トークイベント「ブエノスアイレス」 12月1日[日] 16:00～18:00 予約不要・入場無料

秋庭 史典(美学者/名古屋大学准教授) | 川松 康徳(アーティスト) | 大崎のぶゆき



**Buenos Aires | Osaki Nobuyuki Exhibition** 2019.11.22 Fri. 11:00-19:00 / 11:00-22:00 on Fri. / Closed on Mon.  
Talk Event [ Buenos Aires ] 12.1 Sun. 16:00-18:00 | Kawamatsu Yasunori, Akiba Fuminori, Osaki Nobuyuki

Gallery PARC 2F-4F, 502, Eboshiyacho, Nakagyo-ku, Kyoto-shi, Kyoto, 604-8165 Tel\_075-231-0706 Mail\_info@galleryparc.com HP\_http://www.galleryparc.com

## ブエノスアイレス

大崎のぶゆき

2019年11月22日[金]—12月8日[日] 11:00～19:00 / 金曜日22:00まで開廊 / 月曜日休廊

トークイベント「ブエノスアイレス」 12月1日[日] 16:00～18:00 予約不要・入場無料

秋庭 史典(美学者/名古屋大学准教授) | 川松 康徳(アーティスト) | 大崎のぶゆき

Gallery **P A R C**  
GRAND MARBLE



《untitled album photo (Nikkei-Buenos Aires)》(部分)

2019 映像(3チャンネル)、写真、ボタン、ガラスの器、インタビューの音声、その他 インスタレーション  
 ※cheLA(ブエノスアイレス) オープンスタジオでの展示風景 / 2019

## ブエノスアイレス

### 大崎のぶゆき

Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、2019年11月22日(金)から12月8日(日)まで、大崎のぶゆきによる個展「ブエノス アイレス」を開催いたします。

2000年に京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(版画)を修了した大崎のぶゆき(おおさき・のぶゆき/1975年・大阪生まれ)は、これまで国内外での多くの個展・グループ展などによる発表を続けています。近年では「キュレーターからのメッセージ2012 現代絵画のいま」(兵庫県立美術館、2012年)、「未見の星座-つながり/発見のプラクティス-」(東京都現代美術館、2015年)、「Noemi Weber/ Nobuyuki Osaki」(ルートヴィヒ・フォーラム・アーヘン、2017年)などのグループ展のほか、「マルチプル ライティング」(YUKA TSURUNO GALLERY、2018年)、「HAMBURG ON HAMBURG」(MIKIKO SATO GALLERY、2015年/ハンブルグ)などの個展を開催。また、2009年に文化庁メディア芸術祭推薦作品、2013年にVOCA佳作賞、2017年には大阪市「咲やこの花賞」を受賞。2019年は愛知県美術館や佐倉市美術館でのグループ展などのほか、『六甲ミーツ・アート 芸術散歩』に参加(招聘)するなど、精力的な活動を続けています。

大崎はこれまで、自身を取り巻く世界や認識への興味から「世界の不確かさ」について表現することを探求し、独自に素材や制作方法を開発しながら「イメージが消失する」現象やその過程から、現代社会を取り巻く不確かさの感覚を視覚化するような作品を発表してきました。近年はその不確かさや揺らぎを「未知なる可能性」として捉え・思考しており、作品には<過去/現在/未来>といった時間概念への注目を見て取ることができます。また震災を契機に、大崎が拠点としている大阪や愛知での発生が予測されている南海トラフ地震について強く意識したことから、知人や周りの人々の「記憶や記録」に着目したシリーズ作品の展開にも取り組んでいます。

2019年の4月から約1ヶ月間、大崎は日本の真反対に位置するブエノスアイレス(アルゼンチン)でのレジデンスに参加し、現地で生活する日系移民達の記憶や思い出についてリサーチを行ないました。かつて世界有数の先進国として、首都ブエノスアイレスは「南米のパリ」と呼ばれるほど栄えていたアルゼンチンは、しかし現在までに8回の債務不履行(デフォルト)に陥り、現在も危機的な経済状況にあります。また急激なインフレや上昇する犯罪発生率など、その国情には多くの問題を抱えているといえます。しかし、地理・情勢など、一見して現在の日本とは大きく異なるように思えるこのアルゼンチンでの滞在を通じて、大崎は「アルゼンチンは日本の未来ではないか」ということを感じ、そこに興味を覚えたといいます。

本展は、「ある:ない」や「見える:見えない」といった正反対の視点を導入することで世界を捉えようとする大崎が、「未来について」という興味を軸に、日本の真反対に位置するアルゼンチンでのレジデンスの中で得た「普通のこと」から「未来について」を思考するものです。それは「偶然と必然」、「ユニークピースとマルチプル」といった反対の構造を様々なピースで扱うことで、詩的かつ私的に紡がれるものとなります。しかし、鑑賞者においてこの作品は、それぞれの「過去/現在/未来」へと眼差しを向けるささやかな契機ともなるのではないのでしょうか。

また、会期中には「大崎とブエノスアイレス」というキーに偶然に関わることとなった秋庭史典(美学者/名古屋大学准教授)氏と川松康徳(アーティスト)氏を交えたトークイベントを行ないます。それぞれが訪れたブエノスアイレスの所感を通して、そこにどのような「過去/現在/未来」を見たのかを伺いしれるのではないのでしょうか。



《untitled album photo (Nikkei-Buenos Aires)》(部分)

2019 映像(3チャンネル)、写真、ホタン、ガラスの器、インタビューの音声、その他 インスタレーション

※cheLA(ブエノスアイレス)オープンスタジオでの展示風景 / 2019

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【[info@galleryparc.com](mailto:info@galleryparc.com)】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 **ブエノス アイレス**

出展作家 **大崎のぶゆき**

会期 2019年11月22日[金] — 12月8日[日] 11:00~19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ22:00まで

関連イベント トークイベント「ブエノスアイレス」 12月1日[日] 16:00~18:00 予約不要・入場無料

秋庭 史典(美学者/名古屋大学准教授) | 川松 康徳(アーティスト) | 大崎のぶゆき

主催 ギャラリー・パルク

料金 無料

会場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F **MAP**

アクセス 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

問い合わせ Gallery PARC (正木・村田・岡田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F

TEL 075-231-0706 FAX 075-231-0703 MAIL [info@galleryparc.com](mailto:info@galleryparc.com) HP [www.galleryparc.com](http://www.galleryparc.com)

## 「真反対の双子と、たまたまについて」

僕がなぜブエノスアイレスに行く事になったのか。

それは本当に「たまたま」だ。前年にブエノスアイレスにレジデンスで滞在していた友人のアーティストKさんと、帰国後に一緒にご飯を食べながら土産話を聞き、「いいなあ、アルゼンチンに行きたいなあ」と大いに盛り上がった。そして数ヶ月後、Kさんから「大崎さん、ブエノスでのレジデンス決まりましたよ」と電話がかかってきたのだ。正直、びっくりである。その場のノリがほとんどで、何も考えていなかったのだが「オッケー、いつ？」と返事を返した。

2019年4月半ばから約一ヶ月間、アルゼンチンのブエノスアイレスにアーティスト・イン・レジデンスで滞在してきた。日本から見て地球の真反対に位置するアルゼンチンは、僕の感覚においても真反対の国だ。到着した現地は秋。強く感じる日差しは、日向と日陰の温度差が大きく、色のはっきりと見えるように強い。アルゼンチンは多民族国家で、アメリカ合衆国に次いで多くの移民を受け入れてきた国だ。ブエノスアイレスのヨーロッパのような街並みは、多くの移民団が目指した裕福な国であったという過去の繁栄の記憶を彷彿とさせる。「母をたずねて三千里」というアニメを知っている方も多いと思うが、このアニメはイタリアの少年が、出稼ぎに行ってしまった母をアルゼンチンへ探し訪ねる物語だ。しかし現在の経済は、これまでにデフォルトを8回も経験し、今日のアルゼンチンペソの急落は9回目のデフォルトを予感させる勢いである。デモやストライキも頻繁におこり、地下鉄や電車は日常的によく止まる。だが、彼らの日常はラテン気質もあっていったって楽しそう。レジデンスのスタジオ近くの公園では、毎週末に大きなダンスパーティーが開かれて、多くの人々が夜遅くまで楽しんでた。いろいろと日本では考えられない事態である。

今回の滞在では、日系移民の三世、四世の同世代や若い方々に、日常の記憶や思い出についてアルバム写真などを見せていただいたり、インタビューをしたりと見聞きしてきた。理由は「未来」について考えたかったからだ。来年の東京オリンピック以降の漠然とした不安感や、近年頻発する自然災害。自分の国に明るいイメージが思い浮かばない中で、たまたま決まった滞在中、たまたま出会う風景と、たまたま出会った人々の思い出や生活について見聞きする。地球の反対で、そんな普通なことから未来について考えてみたかった。

移民の国で「移民」として世代を繋げる日系の方々には、自らのアイデンティティーについて強く意識し、そこで生きている。幾人かの人々にインタビューをする中で、日系四世の「双子」に出会った。事前に双子と聞いていたが、彼女たちの性格や格好は真反対で、本当に双子なのか？という第一印象と、インタビューを通じて知った彼女たちの生い立ちから、僕は様々なことを考える。

かつて経済学者のサイモン・クズネッツが「世界には4種類の国がある。先進国と途上国そして、日本とアルゼンチンだ」と語った国。途上国から先進国となった日本と、先進国から途上国となったアルゼンチン。そこでの滞在中を通じて「アルゼンチンは日本の未来ではないか」ということを感じる。上手く言語化できないのだが今回のリサーチで彼らと話をしたことは、どこか未来に繋がる気がする。

僕は記憶や思い出について、ユニークピースでありマルチプルだと考えている。これらは個人にとって間違いなく唯一のものであるのだが、他者の記憶に触れることは、自分自身と繋がって転写していくようにも感じる。このなんともいえない時空を超えて繋がっていく感覚は確かに存在している。日本とアルゼンチンという真反対の場所で取材した彼らの記憶や思い出。そして僕のこの滞在中での記憶や思い出。その出会いはたまたまであり必然である。時空は繋がっていくのだ。

そんなことをあれこれ考えながら帰国して直ぐ、秋庭さんにお会いする事になった。そこで「学会でブエノスアイレスに行く事になったのですが、どんな所ですか？」と尋ねられた。二度目のびっくりである。

僕が感じた繋がりの時空は、現実世界でも繋がっていくらしい。

大崎のぶゆき

Osaki Nobuyuki

1975 大阪生まれ  
 1998 京都市立芸術大学美術学部美術科版画専攻卒業  
 2000 京都市立芸術大学大学院美術研究科版画修了  
 2003 大阪府芸術家交流事業「ART-EX」選出により、ドイツ・デュッセルドルフ市にて滞在制作

おもな個展

2018 「マルチプル ライティング」 YUKA TSURUNO GALLERY、東京  
 2017 「Multiple Lighting」 MIKIKO SATO GALLERY、ハンブルク  
 = 「マルチプル ライティング」 ギャラリーほそかわ、大阪  
 2015 「HAMBURG ON HAMBURG」 MIKIKO SATO GALLERY、ハンブルク  
 = 「Display of Surface-「不可視/可視/未可視」」 galerie 16、京都  
 = 「Reparatur-Trace Trip, Time capsule」 YUKA TSURUNO GALLERY、東京  
 2013 「Trace Trip, Time Capsule」 MIKIKO SATO GALLERY、ハンブルク  
 = 「T」 galerie 16、京都  
 2012 「リバーシブル ストーリーズ」 ギャラリーほそかわ、大阪  
 = 「scribble」 YUKA TSURUNO、東京  
 2011 「Climbing the World」 MIKIKO SATO GALLERY、ハンブルク  
 2010 「dimension wall」 ギャラリーほそかわ、大阪  
 = 「falls」 yuka contemporary、東京  
 2009 「PHANTOM-water drawing-」 MIKIKO SATO GALLERY、ハンブルク  
 2008 「ファンタム」 galerie 16、京都  
 = 京都芸術センター公募2008 大崎のぶゆき「meltdown」 京都芸術センター  
 2003 「Between Inside and Outside」 Kunstraum、デュッセルドルフ  
 = 「Distance of Interval」 CAI、ハンブルク  
 = 「皮膚呼吸」 大阪府立現代美術センター  
 2002 「間の距離」 Oギャラリーeyes、大阪  
 2001 「内と外とその間」 galerie 16、京都

おもなグループ展

2019 「六甲ミーツアート2019」 六甲山、兵庫  
 = 「Ars Electronica Festival」 POST CITY、リンツ  
 = 「もう一つの夏休み ふしぎな世界で、ミテ・ハナソウ」 佐倉市美術館、千葉  
 = 「アイチアートクロニクル1919-2019」 愛知県美術館  
 2018 「NEUERDINGS 2018」 MIKIKO SATO GALLERY、ハンブルク  
 = 「批評する身体:メディアと社会と表現と」 アートラボあいち、名古屋  
 2017 「Noemi Weber/ Nobuyuki Osaki」 ルートヴィヒ・フォーラム美術館、アーヘン  
 = 尾道市の芸術祭「海と山のアート回廊」 絵の街館、広島  
 = 「Melting Point 2」 MEM、東京  
 2016 「TEGAMI Project "Melting Point"」 Künstlerhaus Hamburg e.V./ハンブルグ/The Third Gallery Aya、大阪  
 = 「DISEGNO /JAPANISCHE ZEICHENKUNST DER GEGENWART」 MIKIKO SATO GALLERY、ハンブルク  
 = 「となりの人びとー現代美術in春日井」 文化フォーラム春日井など、愛知  
 2015 「TAIPEI DABADA」 台北市植物園、台北  
 = 「芸術は自分を知覚するシステム: 関口 敦仁・中原 浩大・大崎のぶゆき」 Galleria Finarte、愛知  
 = 「60 JAHRE KUNST IN HAMBURG」 Affenfaust Galerie、ハンブルク  
 = 「未見の星座一つながり/ 発見のプラクティス」 東京都現代美術館  
 2014 「ただいま。カーネーションと現代美術。」 岸和田市立白泉会館、大阪  
 = 「Japanese Gegenwartskunst und Textil」 MIKIKO SATO GALLERY、ハンブルク  
 2013 「Summer Group Show 2013」 YUKA TSURUNO GALLERY、東京  
 = 「アートがあれば II- 9人のコレクターによる個人コレクションの場合」 東京オペラシティーアートギャラリー  
 = 「トリックディメンション」 TOLOT (heuristic SHINONOME)、東京  
 = 「景色替え/ Scenes Changing」 ギャラリーほそかわ、大阪  
 = 「VOCA2013」 上野の森美術館  
 = 「すくいとられたカタチ」 名古屋ボストン美術館



《untitled album photo (Sea, Pink cap, 94) 1》  
 2019 Cプリント 120×80cm(132.6cm×92.6cm)



《untitled album photo (Sea, Pink cap, 94) 2》  
 2019 Cプリント 120×80cm(132.6cm×92.6cm)



《portraits》

2019 モニター、ビデオ、その他 インスタレーション  
 ※アルスエレクトロニカ2019での展示風景 / 2019

- 2012 「キュレーターからのメッセージ2012 現代絵画のいま」 兵庫県立美術館  
 = 「ポジション2012 この場所から見る世界」 名古屋市美術館  
 = 「Forms in Flux」 School of the Museum of Fine Arts Boston, ボストン
- 2011 「Haut. Mythos und Medium」 Kunsthaus Hamburg, ハンブルグ  
 = 「TOUGEN「現代作家による桃源郷へのアプローチ」」 masayoshi suzuki gallery, 愛知
- 2010 「アイチ・ジーン」 愛知県立芸術大学 芸術資料館  
 = 「揮発する色—大崎のぶゆき・田中朝子展」 masayoshi suzuki gallery, 愛知  
 = 「あいちアートの森」 東陽倉庫テナントビル, 愛知
- 2009 Exhibition as media 2009「drowning room」 神戸アートビレッジセンター  
 = 「映像メディアのコンテクスト」 名古屋芸術大学 アート&デザインセンター、  
 = 「エキゾチックーひかりのまち」 愛知児童総合センター  
 = 「第12回文化庁メディア芸術祭」 国立新美術館
- 2007 「5-7-5」 Kunsthaus Hamburg, ハンブルグ  
 = 「新・公募 Re-Act」 広島市現代美術館  
 = 「版という距離」 京都芸術センター  
 = 「Independent 2007」 愛知県美術ギャラリーH・I室
- 2005 「見る私／見られる私-京都市美術館コレクション展-」 京都市美術館
- 2004 「版画の力」 京都府立文化博物館
- 2002 「京都府美術工芸新鋭選抜展」 京都府立文化博物館  
 = 「ISEA2002 Media Select Program・不死身の空間」 名古屋市民ギャラリー矢田
- 2001 「Nomart Project -イメージ・オン・イメージ-」 ノマルエディションプロジェクト  
 スペース, 大阪
- 2000 「現代版画コンクール展」 大阪府立現代美術センター
- 1998 「神戸アートビレッジ 映像考／...」 神戸アートビレッジセンター  
 = 「新世代の版画家たち'98」 ギャラリーココ, 京都

イベント・ワークショップ

- 2015 WS&作品展示「新しいおもいでの作り方」 豊田市美術館
- 2012 WS「water drawing-水面に広がる不確かな世界」 名古屋市美術館
- 2010 EV「Msuemnacht」 Stadtgalerie Kiel, キール  
 = EV「VIDEO RELAY 2010」 MUZZ PROGRAM SPACE, 京都  
 = WS「water drawing・とける絵を描こう」 愛知県立芸術大学芸術資料館
- 2007 WS「water drawing-水面に広がる不確かな世界」 京都芸術センター
- 2005 WS「内と外とそのあいだ」 京都市美術館
- 2003 WS「あなたの“内”と“外”の境界を探る旅に出よう！」 大阪府立現代美術センター
- 2002 WS「内と外とその間」 名古屋市民ギャラリー矢田

レジデンス

- 2003 大阪府芸術家交流事業「ART-EX」(デュッセルドルフ)
- 2019 cheLA Artist in Residence Program (ブエノス・アイレス)

受賞など

- 2017 「咲くやこの花賞」受賞
- 2015 「名古屋市芸術奨励賞」受賞
- 2013 「VOCA 2013」佳作賞 受賞
- 2009 「第12回文化庁メディア芸術祭」審査委員会推薦作品
- 2008 「京都芸術センター公募2008」
- 2003 大阪府芸術家交流事業「ART-EX」
- 2002 資生堂ADSP
- 2001 京展2001 京都市美術館賞 受賞  
 = 第16回ホルベインスカラシップ奨学生
- 1998 京都市立芸術大学制作展 松原賞受賞(00年、同窓会賞受賞)  
 = 第50回京展 須田賞受賞
- 1996 第21回全国大学版画展 買上賞受賞(97、98、99年ともに買上賞)

パブリックコレクション

千島土地株式会社、町田市立国際版画美術館、京都市美術館、三戸町立現代版画研究所、京都市立芸術大学資料館、関口美術館



《untitled album photo(Nikkei-Buenos Aires)》  
 2019 instaxフィルム、合板、額 29×39cm (flame size)



《Observer》

2018 鏡、ガラス、鏡塗料、その他



大崎のぶゆき「マルチプル ライティング」 展示風景  
 YUKA TSURUNO GALLERY (東京) / 2018